

2018年11月30日発行

③ TAGと言う名の超FTA

安倍晋三首相は「FTAとは全く異なる」と会見しました。彼が「全く異なる」と言うときは、「全く同じ」を意味します。TPPの危険性はここに何度も書いてきましたが、アメリカとの米日FTAはもっとまずいことになるでしょう。米韓FTAにそのヒントがあります。

米韓FTA(自由貿易協定)は信じられないような不平等協定なのです。安倍首相はそれをよく知っているので、「FTAとは全く異なる」と言ったのです。

韓国政府は医療・福祉・教育には影響がないと言っていました。どんどん規制が緩和されています。医薬品分野ではアメリカの要求を100%飲まされているので、アメリカの医薬品を拒否できません。政府が医薬品の許可を遅延させた場合、アメリカ企業に損害を補償する規定があるのです。政府が薬価を低く設定しようとしても、米国は見直しを求めることができます。つまり韓国政府は韓国の国民の為に薬の値段を決められないということになります。当然、医療費の高額負担が国民に押し付けられます。

今後、韓国の郵政は新しい保険を売り出せなくなります。おっと、どこかの国のがん保険と似てますね。

種子法が廃止され、農協が解体され、アメリカ産の農作物が自由に輸入され、規制をすれば賠償を求められ、狂牛病の牛肉も規制できない日が来ます。それがFTAの怖さです。勿論、医療保険も狙われていますから、お金がないと医療保険に入れない米国と同じような国に日本が近づいていくことは間違いありません。TAG→日米のグローバル企業だけが儲けという仕組みを安倍政権は作ろうとしているのです。

中間選挙では共和党が下院で負けました。トランプは「外交」で日本に最大限の圧力を掛けてくるでしょう。まあ、アメリカの大統領が共和党だろうが、民主党だろうが、日本は今の自民党政権が続く限り、屈辱的な「日米地位協定」は変わらぬでしょうし、アメリカのように「格差」は更に広がっていくでしょう。

大臣達の国会答弁も史上最低レベルです。そもそも「原発は完全にコントロールされている」と大嘘をつく人を総理大臣にしてしまった国民が悪いのです。



11月4日。五中陸上部女子が2年連続で全国大会出場を決めた瞬間です。五中男子も大健闘。二中・三中の子ども達も頑張った県大会でした。③

たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。

本名 たかむらともや

新宿区立西戸山小中学校卒。
新宿区百人町では超有名な悪ガキで成績も悪かった。

都立石神井高校では学年でベケから6番。クラスでは最下位。

北大時代も単位を落としまくり、結局、卒論を出さずに卒業。新卒で新座五中3年4組の担任となる。

五中、六中、二中時代は猛勉強して理科・数学・国語・体育・英語などの教科を同時に複数教える。その経験が今に生きている。

石神井3丁目の「たかやん塾」はこの10月からリニューアルオープン！リクエストに応え「個別対応」の塾となった。写真は五中4期生のババツ。僕が駅立ちをはじめたのは、ババツが本気で「駅立ちをやれ！」と説教をしてくれたから。学校では僕が「先生」だったが、政治の世界ではババツが「先生」だった。好きな言葉は「一生懸命」「継続は力なり」「経世済民」「明眸皓齒」「粒粒辛苦」「一期一会」「臨機応変」『一生懸命』は20年間書いた学級通信の名前。

「たかやんの応援団」で検索して「たかやん日記」過去の「一生懸命」も覗いてください。たかやん ③

③ 消費税と移民政策

安倍政権は来年10月の「消費税増税」を明言しました。「消費税の目的」は何でしょう。安倍政権の6年間で「社会保障費」を3.9兆円も削減していますから、それが目的でないことはハッキリしています。「国の借金」も作り話です。日本国債は円建てですから、日本が「破綻」することはありません。

確かに日本の対外負債は503.8兆円ありますが、対外資産は825.7兆円もあるのです。(2014年)つまり対外純資産321.9兆円もあるのです。実は、日本は世界一のお金持ちなのです。

「消費税増税の目的」はズバリ「法人税の減税」と「金持ち減税」です。要するに安倍政権を支えている人たちの利益の為に、経済が更に冷え込み、デフレが進み、実質賃金が下がることが分かっているにもかかわらず、全ての国民を犠牲にしようとしている訳です。それが今の安倍自民の本質です。

「移民政策」が国会で大問題になっていますが、目的は「消費税」と同じです。経済界からの要求で大急ぎで進めようとしているのです。「人材不足」を安い労働力で穴埋めしようとしているのです。日本の若者たちの雇用がどうなろうと、日本の治安が悪化しよう、劣悪な労働環境であろうと自分達のバックである財界が儲かればどうでもいいのです。

「人材不足」なら、賃金を上げて「生産性を向上」を目指せばいいのです。それには「財政出動」しなければならないのに、「緊縮財政」では話になりません。日本をアメリカ型の「大貧困格差社会」にはいけません。勿論、中国型、北朝鮮型、韓国型社会も御免です。野党がだらしがないという嘘に騙されてはいけません。格差のない、戦争とは無縁で安全な国を子ども達に残していきたいものです。



③ 教師を目指す人へのメッセージ2

左下の写真は11月1日(木)東京大学宇宙線研究所教授で理学博士の田越秀行先生が出身校の八石小学校で「不思議発見、ブラックホール」という講演を行った時の写真です。

実はこの田越先生、五中の4期生で僕のクラスの卒業生です。仲間からは「ごし君」と呼ばれていましたが、僕は「しゅうこう」と呼んでいました。

本名は「ひでゆき」なのに、囲碁の藤沢秀行が大好きだったので、そう呼んでいたのだと思います。

このクラス、「朝勉」に燃えたクラスでした。持ち上がりということもありましたが、3年1組はなんと1年間毎朝、他のクラスよりも1時間早く登校して勉強したのです。ふざけていたのは3年の2学期の期末テストの前日の日曜日、珍しくテストを完成させてしまった暇な担任は1組の男子に「校庭に集合」と連絡網を回します。すると、殆どの男子が五中の校庭に集合したのです。そして、2~3時間、みんなで遊びました。それでも、期末テストの成績は断トツの1位でした。ふざけたクラスでしょ？

下の写真は秀行(右)が京大に、同じクラスの大(左)が東大に合格したことを報告しに来た日の写真です。現役で、東北大や早稲田にも合格していたのに、1浪して京大へ行った秀行に『何で京大の宇宙物理なの?』『たかやんの理科の授業の影響ですよ』『本当に?』『はい』『まじかよ……』

五中時代の僕の「宇宙」の話がどう面白かったかは分かりませんが、秀行は「宇宙物理」の世界に飛び込みました。そして日本は勿論、世界の最先端の研究者となってくれたのです。

あの日、1組の子達と遊んで幸せだった担任は、4年後も38年後のこの日もとても幸せでした。



読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m (_ _) m